

麻疹・風しんの予防接種を受けましょう

古くから、麻疹は、しかし・本ばしか、風しんは三日ばしかなどと呼ばれてきました。どちらも発熱と発疹のする病気ですが、全く違う病気です。

麻疹は咳と熱で始まり2〜3日目から全身の発疹がでて、その後3〜4日高熱が続きます。通常の経過でもつらい病気です。約1、000人に1人は命を落とします。

風しんは軽い熱と発疹がでます。症状は軽く、よく夏力ぜと間違われます。問題なのは妊婦さんが感染した場合で、赤ちゃんに視覚・聴覚障害、心臓病などの生まれつきの異常を起こすことがあります。幸いなことに、どちらの病気も1回の予防接種で90数パーセント、2回の接種でほぼ100パーセントの予防効果が期待できます。

なぜ2回接種が必要か？

麻疹・風しんの流行が

減ったことで、接種した人が麻疹・風しん患者に接する機会が減り、何年かたつと抗体が減ることが分つてきました。どうやら一昔前までは、ワクチンを受けた人はその後ウィルスと接触して自然と抗体が増えていたようです。

昨年は久々に麻疹が流行しました。感染したのはほとんどが10代以降で、ワクチンを1回しか受けていない人が多く含まれていました。

新しい麻疹・風しんの予防接種

現在は、麻疹と風しんがいっしょになった混合ワクチン(MRVワクチン)が使われ、同時に予防できるようになりました。1歳から2歳未満で1回目(第1期)、小学校に入学前の1年間で2回目(第2期)の接種を受けます。この制度は平成18年4月から始まり、現在の小学校2年生までは2回受けているはずですよ。

しかし、小学校3年生以上の児童・生徒は、1回しか受けておりません。そこで、今年の4月から5年間だけの救済制度が始まりました。中学校1年生(第3期)、高校3年生相当の年齢(第4期)のいずれかで2回目のMRVワクチンを無料で受られます。ただし、あくまで機会は一度だけで、中学校1年で受けておかないと高校3年生のときはもう無料では受けられません。ご注意ください。

また、19歳以上30歳代までの人で、麻疹にかかったことがなくワクチンを1回しか受けていない人は、自費になりますが2回目の接種を受けられることをお勧めします。



佐伯地区医師会
大崎 秀

なるほど!! 健康講座

問合せ 廿日市市保健センター ☎②01610